

✿ 退官者のひとこと

おかげさまで停年です



金子裕之さん

この3月末に、停年を迎えることとなった。エキスポ'70の年に学校を出て、35年。よくここまで来られたものである。この間、古代史を学ぶ者には垂涎^{すいぜん}の的^{まど}である平城宮跡や藤原宮跡の大極殿・朝堂院など古代の宮殿や、法隆寺、興福寺などこれまた超がつくお寺の数々、さ

らには長屋王邸など希有な遺跡の発掘に立ち会えたことは、幸いであった。この日を無事に迎えることができることを含め、多くの方々のおかげである。この機会に、お礼を申し上げたい。

それにしても、ここ1・2年、年度末が来るたびに思い起こすのが3年前の老妻の、あのひと言。

「どうするの?」。突然のことに、目を白黒させる私。

「明日までなら3,500万。4月になったら500万。だからどうするの、と聞いているの!」

保険金のことだった。掛け金は低いのが、期間内に死亡すればそこそこの保険が下りる代わり、過ぎるとガタンと下がる「定期付終身保険」である。めったに病気はしないが、ゴロゴロといつも雷が鳴るわたしのお腹。それを気に病んで若き日の老妻が、幼い子の行く末を案じて、やり繰りしていたのだ。

幸か不幸か(?)、こんにちまで命ながらえ、なんとか退職金がいただけそうである。保険金とそれなりに相殺されるせいか、老妻にいまのところ、不満はないらしい。

しかし、一難去ってもまた難題が。

「いま、忙しくて・・・」

毎日が日曜日になる4月からは、いままでのサボりの理由は通じない。さて、どうするか・・・。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 金子 裕之)